



〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail :kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

センターからのお知らせ
希望研修追加募集について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
施設開放「チャレンジしののめ塾」・・・・・・・・・・・・ 1
教科教育部より
理科研修講座のご紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
生徒指導・特別支援教育部より
生徒指導・特別支援教育の視点で開発した指導資料・・・・ 4
ひらがなの読み書きの苦手な子どもの理解と対応①・・・・ 5

センターからのお知らせ

- ☆6月3日(月)希望研修がスタートしました。
- ☆追加募集講座一覧はセンターHPからも随時確認できます。
- ☆申し込みは追加募集用申込システムをダウンロード、あとは4月の申込み同様に手順に従ってください。(詳しくは「追加募集講座申込み手引き」をご覧ください。)



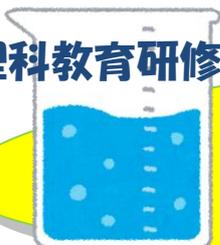
施設開放 「チャレンジしののめ塾」

平成25年8月24日(土) 10:00~15:00

今年も楽しくてためになるコーナーがいっぱいです。ご家族でお出かけください!!



理科教育研修講座



『小学校3・4年の実験基礎「物質」』

6月3日(月)実施

今年度の理科の研修講座は、この講座でスタートを切りました。
小学校3年生から始まる理科の授業。

「今日は何をするのかな？」

「今日はどこに連れて行ってくれるのかな？」

わくわくしながら、理科室へ向かう子どもたちの姿があります。



今回はそんな子どもたちを、もっとわくわくさせるための研修をしました。

子どもたちがいつも目にしていてるペットボトルやストローを使って、2種類のてんびんを作りました。ストローで作ったてんびんは、すごく小さな軽いものの重さを比べることができます。

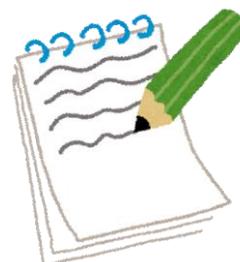
ペットボトルとプラパイプを使うと、手作り温度計の完成です。お湯につけると赤く着色した水がぐんぐんパイプの中を上がっていきます。

マッチやアルコールランプを使った実験もしました。

基本操作さえきちんと知っていれば、安全に使うことができます。

わくわくどきどきしている子どもたちの姿を目に浮かべながら、参加

された先生方も、わくわくどきどきの研修をされていきました。授業でぜひ活かしていただきたいと思います。



これから実施される理科に関する講座の紹介 (受講者追加募集中！)

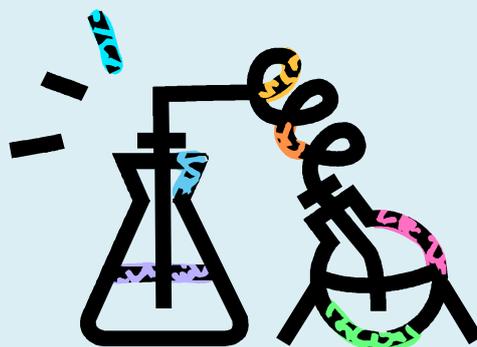
教科等研修

理科(応用発展) 3-1-04-34

「生徒の興味を高める中・高化学」

7月24日(水)

中高一貫校、開成学園中学・高等学校教諭で、NHK高校講座化学基礎講師の宮本一弘先生を講師に迎え、校種を越えた興味深い化学実験を紹介していただきます。受講後、すぐに授業で活かせる実践がいっぱいです。

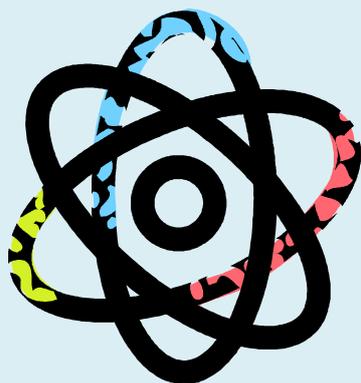


学校力の向上を目指す研修

放射線教育 3-2-11-01

「放射線教育にどう取り組むか」

7月27日(土)



福島県郡山市立赤木小学校教諭で、「放射線になんか、まけないぞ!」などの著書の坂内智之先生を講師に迎え、放射線教育について考えます。理科や総合的な学習の時間だけでなく、避難所での実践も紹介していただきます。原子力災害の教訓を風化させないために、いま一度考えてみませんか。

新規企画で
土曜日開講!

生徒指導・特別支援教育の視点で開発した指導資料

～「児童生徒一人ひとりを大切にする学校づくり」をサポートするために～

「児童生徒理解」や「関係づくり」の視点に立ち、教師自身の振り返りをはじめ、指導や支援のために活用できる指導資料やツールを開発しました。概要とダウンロード方法を紹介します。学校の実情に合わせてご活用ください。

資料のダウンロード方法

長野県総合教育センターのホームページにアクセスし、**研究調査事業**の項目にある**プロジェクト研究**をクリックしてください。



以下4項目の指導資料をダウンロードできます。

すべての子どもが学びやすい環境づくりを目指して

～子ども理解に基づく「授業のユニバーサルデザイン化」振り返りシートの活用～

すべての子どもが学びやすい学習環境をつくるため、「子どもとの関係づくり」や「授業のユニバーサルデザイン化」の視点から作成した「振り返りシート」の具体的な活用方法を提案します。

通常学級における読み書きの苦手な子の理解と支援を目指して

～小学校1学年における読み書き状況把握ツール～

読み書きの未習熟は、その後の学習の困難に直結するため、早期対応が大切です。小学校低学年のひらがなの読み書き状況を把握し、習得が不十分な場合、その状況に応じた支援にスムーズにつなげていくためのツールを提案します。

子どもとの関係づくりを大切にするために

～「関係づくり」振り返りシートの活用～

教師が児童生徒と良好な人間関係・信頼関係を築くことにより、児童生徒は安心してできる環境の中で持てる力を十分に発揮し、困難を乗り越えることができます。教師の関係づくりの視点を広げる「関係づくり振り返りシート」と、その活用方法について提案します。

子どものSOSを「見逃さない」ために

～「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した「より良い人間関係」の構築～

「いじめ」や「不登校」に限らず、生徒指導上の諸課題は早期発見・早期対応がポイントです。「アンケート」と「5分間ショート面接」の効果的な活用による児童生徒の実態把握や相談窓口の確保、教師と児童生徒のよりよい人間関係の構築について提案します。

※上記の内容について校内研修を支援します。

教頭先生をとおして、生徒指導・特別支援教育部までご相談ください。

☎0263-53-8833(生徒指導) / 0263-53-8805(特別支援)

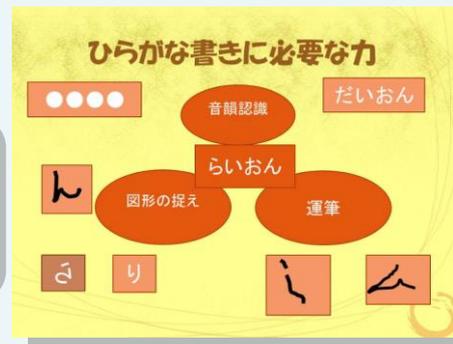
ひらがなの読み書きの苦手な子どもの理解と対応①

ひらがなの読み書きの習得が進まないお子さんはいませんか？

入学して2か月が過ぎ、1年生のひらがなの学習も進んでいることと思います。学級の子どもたちの習得の状況はいかがですか？ひらがなの読み書きの力は、その後のすべての教科学習にかかわる力です。ひらがな入門期の指導・支援を丁寧に行いましょう。ひらがなの読み書きの苦手な子どもたちをどのように理解し支援していけばよいのか、紹介していきます。

ひらがなの読み書きに必要な力

- ① 言葉の音を小さい単位に分解する力(音韻認識)
- ② 字の形をとらえる力(図形認知・視覚認知・視覚記憶)
- ③ 運筆の力(目と手の協応)



音韻認識が大事

ひらがなの清音は一つの文字と一つの音が対応しているので、文字と音の対応を覚えると読み書きできるように思われがちです。しかし、一つの言葉がいくつの音のかたまりでできているのかわからないと、一つ一つの音に分けて理解する事が難しく、音と文字とを対応をさせることが難しくなります。たとえば、「たいこ」を「た」「い」「こ」の三つの音に分けて抽出することを音韻認識といいます。「音韻認識」が正しくできないと文字の学習は難しくなります。

【音韻認識を育てる遊び】

- ・ **しりと**は、単語を音に分け、語尾の音を意識して、その音が語頭にある単語を考える遊びです。ひらがなを覚えるために大切な音韻認識を、楽しみながら身に付けることができます。
- ・ **ためき言葉**：「たまご」のためき言葉は→「まご」、「かたたたき」のためき言葉は→「かき」等、言葉の中にある音の中で「た」だけ抜いてできる言葉を考えます。一つの言葉を音韻認識することに楽しく取り組みます。
- ・ **グリコすごろく**：清音でできている言葉でしりとりをしながら、その言葉の拍の数だけすごろくを進みます。遊びながら拍の感覚に意識が向きます。

聞き分けられないと話せない、読めない。 読めないと書いても覚えられない。

音の聞き分けがうまくできないと、正しく話す・読む・書くことが難しくなります。たとえば、「らくだ」を「だくら」等書き間違えている場合は、「ら」と「だ」を聞き分けることができているか確かめてみましょう。「らくだ」と聞かせて、真似をさせてみて、「だくだ」または「だくら」になる場合は、うまく聞き分けられていない場合が多いです。うまく聞き分けられていない場合は、「らくだ」○「だくら」×等、ゆっくり大人が発音して、子どもに正しいか正しくないか○×を言わせる等、正しく聞き分けられるようになってから、「話すこと」「読むこと」「書くこと」の学習に進めていきましょう。

